

日本学術振興会  
炭素材料第117委員会  
第304回委員会議事録（案）

1. 日 時 平成24年11月16日（金） 9:30~17:00
2. 場 所 産業技術総合研究所 臨海副都心センター本館 4F 第二会議室
3. 出席者41名 （順不同・敬称略）

委員 長： 寺井隆幸（東大）

主 査： 川口雅之（大阪電通大）、児玉昌也（産総研）

幹 事： 稲垣道夫（北大）、安田榮一（東工大）、京谷隆（東北大）、  
吉田明（都市大）、豊田昌宏（大分大）、小林知洋（理研）

委 員： 阿久沢昇（東京高専）、岩下哲雄（産総研）、上野貴博（日本工大）、  
蛭谷玄太（コバレントマテリアル）、沖野不二雄（信州大）、  
小田廣和（関西大）、小野雅博（川俣精機）、鏑木裕（東京都市大）、  
塩山洋（産総研）、杉本久典（日本黒鉛工業）、  
園部直弘（クレハ／代理：鈴木真央）、  
高波浩（タンケンシーラセーコウ／代理：木村直文）、  
中壽賀章（積水化学工業）、羽鳥浩章（産総研）、平原聡（三菱化学）、  
福田敏昭（東海カーボン／代理：鶴田佳子）、向井紳（北大）、  
仁平徹（日立化成工業）

委員 外： 奥達雄（茨城大）、木村脩七（東工大）、清原健司（産総研）、  
斎藤幸恵（東大）、寺西春夫（石川カーボン科学技術振興財団）、  
中村和正（福島大）、菱山幸宥（東京都市大）、宮嶋尚哉（山梨大）、  
山田能生（産総研）、西澤節（神戸製鋼）

同伴者他： 吉澤徳子（産総研）、曾根田靖（産総研）、小田原玄樹（産総研）、  
近藤剛弘（筑波大）、川村良一（タンケンシーラセーコウ）

#### 4. 本委員会議事経過

寺井委員長司会の下に本委員会を開催した。

##### 4.1 前回議事録の承認

下記を修正し第303回議事録（案）を承認した。

#### 4.3-(1)-(g) 夏期セミナー → 夏季セミナー

A 分科会議事録については以下を修正する。

第2項4行目 ピーク面積 → ピーク強度

B 分科会議事録については以下を修正する。

第1項3行目 ポリマーを → ポリマーの

第1項3行目 並行 → 平行

第2項2行目 (EDLC)キャパシタの特性 → (EDLC)のキャパシタ特性

第2項4行目 低電流 → 定電流

第2項5行目 発表 → 発泡

第2項8行目 終電材 → 集電材

#### 4.2 第117委員会関係

##### (1) 委員長報告等

##### (a) 委員の異動等

###### ・社名変更

新日本製鐵株式会社 → 新日鐵住金株式会社 (飯島委員)

新日鐵化学株式会社 → 新日鐵住金化学株式会社 (川野委員、箭内委員)

###### ・主査交代の件

日本工大・上野貴博先生に4月に遡り委員委嘱。今年度はD分科会主査代行として活動頂き、来年度より正式に主査を委嘱。

##### (b) 日独合同セミナーについて

- ・第4回は済州島にて行われる Carbon2014 の後に、向井委員がホストとなり北海道で開催。
- ・ドイツ側はそれ以降も継続意思あり。
- ・目的の明確化、日本開催時の事務局体制強化、財政強化に関して幹事会で審議。

##### (c) 量子ビーム融合化利用研究について

科研費新学術領域研究に3回目の応募を行った。申請が通った場合には公募研究が募集されるので応募をお願いしたい。

##### (d) 次回以降の予定について

- 第 305 回 4/12(金) 東大  
第 306 回 7/5(金) 東京都市大  
第 307 回 9/13(金) 東大  
第 308 回 11/14(木), 15(金) 産総研 (14(木)は特別講演会)

## (2) 分科会報告

- (117-304-B-1) カリウム-黒鉛層間化合物に空气中安定化と電子輸送特性  
○阿久沢昇<sup>1</sup>, 後藤夢実<sup>1</sup>, 大和田夏美<sup>1</sup>, 玉田耕治<sup>1</sup>, 藤重雅嗣<sup>2</sup>, 竹内健治<sup>2</sup>, 遠藤守信<sup>2</sup>, 松本里香<sup>3</sup>, 曾根田靖<sup>4</sup>, 竹市力<sup>5</sup> (東京高専<sup>1</sup>, 信州大<sup>2</sup>, 東京工芸大<sup>3</sup>, 産総研<sup>4</sup>, 豊橋技科大<sup>5</sup>)
- (117-304-B-2) 金属基板上のグラフェン成長その場観察  
○小田原玄樹 (産総研)
- (117-304-C-1) 液パルスインジェクション法によるカーボンナノファイバーの製造における触媒使用量の低減  
古川陸, 柴下仁志, 池下淳, ○向井紳 (北大)
- (117-304-C-2) (レポート報告) 平成 23 年度特許出願技術動向調査報告書 (概要)「炭素材料及びその応用技術」  
○安田榮一 (東工大名誉教授)
- (D 分科会報告) 近年にみる炭素材料の電気機器への適用  
○上野貴博 (日本工大)
- (117-304-A-1) 電子状態を変調したグラファイト表面での極低温操作トンネル分光計測  
○近藤剛弘 (筑波大)
- (117-304-A-2) カプトン炭の黒鉛化に伴う構造展開とラマンスペクトル  
○菱山幸宥<sup>1</sup>, 吉田明<sup>2</sup>, 鏑木裕<sup>3</sup>, 稲垣道夫<sup>4</sup>  
(東京都市大名誉教授<sup>1</sup>, 東京都市大総研<sup>2</sup>, 東京都市大工<sup>3</sup>, 北大名誉教授<sup>4</sup>)

## 4.3 報告事項

(1) 炭素材料学会関係

学会関係：川口主査（運営委員長）より以下の報告があった。

(a) 入退会関係

10月3日時点の会員数：1049名（正会員；780名、学生会員；269名）。

(b) 2012年度中間収支および2013年度予算案

2012年度中間収支について確認し、2013年度予算案を検討した。

これまで、一般会計の予算案作成時に国際会議積立金、Carbon2008記念基金の2つの口座への送金については「繰り出し」にしていたため予算案の収支差額では支出とはみなされず、分かりにくかった。このため、2013年度はこれらを支出に含めて予算案を作成することとした。

2013年度予算案には「連載講座」の書籍化、「新カーボン用語辞典」の検討などの新規事業を入れる。「連載講座」の書籍化については、発行元を炭素材料学会とし（著作権も当学会が持つ）、販売元を国際文献印刷とする方向で案を作成することになった。「新カーボン用語辞典」については、現在、当学会員に対しWebアンケートを実施しているので、その結果を見て当委員会で判断する予定。

(c) 総会資料案（2013年度評議員、運営委員、編集委員、学術賞など）

2013年度の評議員、運営委員、編集委員の候補を確認した。また、京谷会長より学会賞（学術賞、研究奨励賞、論文賞）について選考委員会の答申が伝えられた。

(d) 年会準備状況

255号の会告にプログラム、補足説明等を掲載予定。

(e) 10月講習会

日本教育会館にて「1日で学ぶ炭素材料の分析方法―入門編―」を実施し、69名の参加があった。

(f) 1月セミナー準備状況

2013年1月18日(金)連合会館にて「新元素戦略と蓄電デバイスのための炭素材料」予定している。

(g) 夏季セミナーについて

夏季セミナーの運営について、本セミナーを現在運営している若手より相談を受け検討中。今後は規定を設けるなどの検討が必要と思われるので、夏季セミナー実行委員会と運営委員会で話し合いを行い、整備していく予定。来年度は、これまで通りの形態で夏季セミナー実行委員会が本セミナーを実施し、2014年度に良い方向に移行する計画を立てることになった。

(h) 日独セミナーについて

117委員会の意向や目的を明確にさせていただき、炭素材料学会が今後どのように協力するかについて検討する予定。

(i) 女性カーボンの会

10月11日に第1回「女性カーボンの会」が東京都市大にて実施された。

次回 第2回運営委員会の予定

日時：2012年11月29日（木）

会場：長野市生涯学習センター（TOIGO）3階第2学習室

炭素誌関係：曾根田氏（編集副委員長）より以下の報告があった。

(j) 255号は11/15に発行済み。特集：炭素材料のモルフォロジー

(k) 256号は1月発行に向けて準備中。小特集：電気化学キャパシタ

(l) 連載講座の書籍化を来年11月に行う。

(m) JSTのJ-stage電子投稿システムに採択されず。年間投稿総数50報に満たないため。

(2) Carbon誌関係

特になし

(3) 国際会議関係

来年5/12-16 東北大においてインターカレーション関係の国際会議が開催される。

(以上)